

No. 1273

首位攻防戦

—セ・リーグ—

巨人、大洋、ヤクルトがめまぐるしく入れかわるセ・リーグのペナントレース。6月6日、巨人・ヤクルトの9回戦が神宮球場で行なわれました。10打席連続ヒットのマニエルは硬くなったか、新浦に三振を喫し、日本新記録はなりません。1点をリードされた巨人は6回、柴田、王が出塁、この日四番、張本は巧いセンター前のヒット、柴田が返り同点。柳田のピッチャーゴロを鈴木が二塁へ悪送球する間、王も返りリード、シピンもレフト前のタイムリーでこの回、3点。新浦の好投で、このまま押し切るかと思われた9回裏、ヤクルトは角のヒットを足がかりに、ヒルトン、マニエル、大杉が連続ヒット、4対4の延長戦にもつれ込みました。10回裏ヤクルトは船田が角の一球目をレフトスタンドへサヨナラ・ホーム。結局5対4でヤクルトが勝ち、ヤクルトは再び首位に立ちました。

石仏にこめる

—東京・葛飾—

無心の境地でひたすら石に向かう。細谷正さん(41才)がこの7年間に彫り上げた石仏は500体をこえる。東京、葛飾区の水元小合新町。細谷さんの本業は食堂経営である。7年前から細谷さんが毎日8時間石仏づくりをするため食堂はほとんど奥さんにまかせきりである。葛飾の柴又帝釈天、細谷さんが石仏を彫るきっかけはここにあった。7年前ここでひとりの予言者に出合った。細谷さんは「予言者はひとつのことをやり通せば道が拓ける」と動機を語る。最初材料の石は買っていたが次第に埋立地などに放置されている石を使うようになった。大きな石はクレーンやトラックを動員するので結果的に石材商から買うより高くついたというが「石が喜ぶと思ってそんな石ばかり使うようになったという。今、夫婦像の制作中である。この石仏で530体目になる。石仏の中で仲むつまじい夫婦像が多いのは何も云わず没頭させてくれる奥さんへの思いやりのようだ。この話を聞いた近くの主婦が作業場を訪ねるようになった。この人は最近ひとり息子を亡くし自分で供養したいのだという。ノミの音だけが夜陰に吸い込まれていく。細谷さんは生きる証を石仏にこめて彫り続ける。